

浅 間 山

○ 概況（平成 15 年 9 月）

火山活動は、やや活発な状態が続いています。

地震活動は、6 月末頃から微小な地震が増加し、9 月も地震回数のやや多い状態が継続しました。また、火山性微動が時々発生しました。

火口底の温度は依然として高い状態が継続していると考えられます。

二酸化硫黄の放出量は、今年 4 月頃に比べると少ない状態となっています。

以上のことから火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も山頂付近に少量の降灰をもたらす小規模な噴火の起こる可能性はあります。山頂付近では少量の降灰や火山ガスには注意が必要です。

○ 地震活動の状況

2000 年 9 月から、地震活動のやや活発な状態が続いていましたが、6 月末頃から微少な地震が増加し、7～8 月に引き続き 9 月も地震回数のやや多い状態が継続しました。今期間、1 日あたりの地震回数は 40～70 回程度で推移しています（全て無感地震、表 1、図 1、図 3）。火山性微動は、上旬に 1 日 1 回程度の割合で発生した後、12 日に 7 回発生するなど一時やや増えましたが、後半は 3 日に 1 回程度と少なくなっています。火山性微動の規模は、基準観測点（B 点、火口の南約 2 km）での振幅が 0.1～0.2 μm 、継続時間が約 1～2 分で、全て小さいものでした（表 1、図 2、図 4）。

表 1 火山性地震・火山性微動日別回数表（浅間山）

浅間山(B点)												
上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
低周波地震	45	43	36	45	64	70	66	59	58	42	528	
微動	2	2	0	0	1	2	1	1	1	0	10	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	旬計	
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
低周波地震	68	62	55	49	49	57	43	39	72	57	551	
微動	0	7	3	2	2	1	1	0	0	0	16	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	旬計	月計
高周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
低周波地震	76	65	63	57	52	36	57	64	67	40	577	1656
微動	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	3	29

短期・日別 地震活動推移 （最近 2 年間の火山性地震・火山性微動の日別回数）

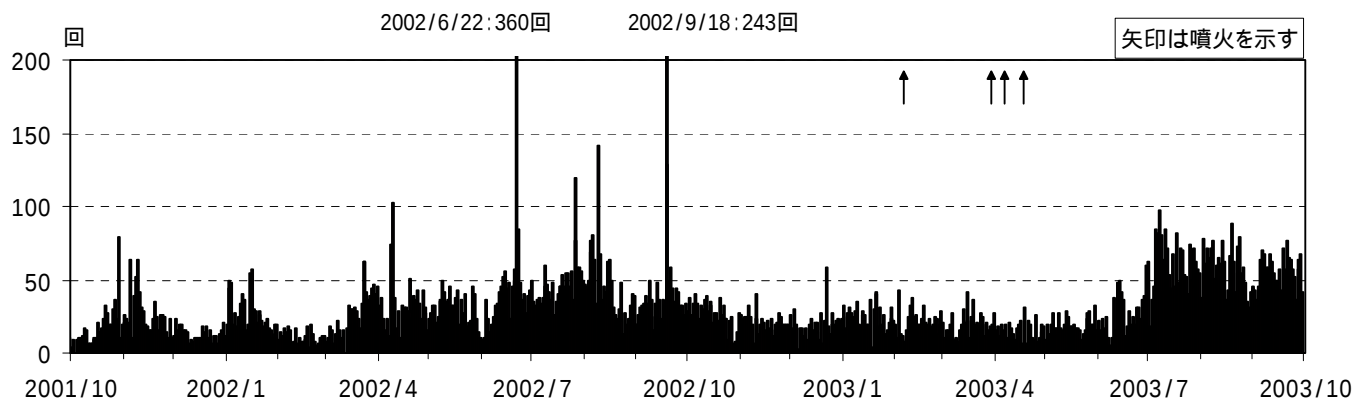


図 1 浅間山 火山性地震日別回数（2001 年 10 月 1 日～2003 年 9 月 30 日）

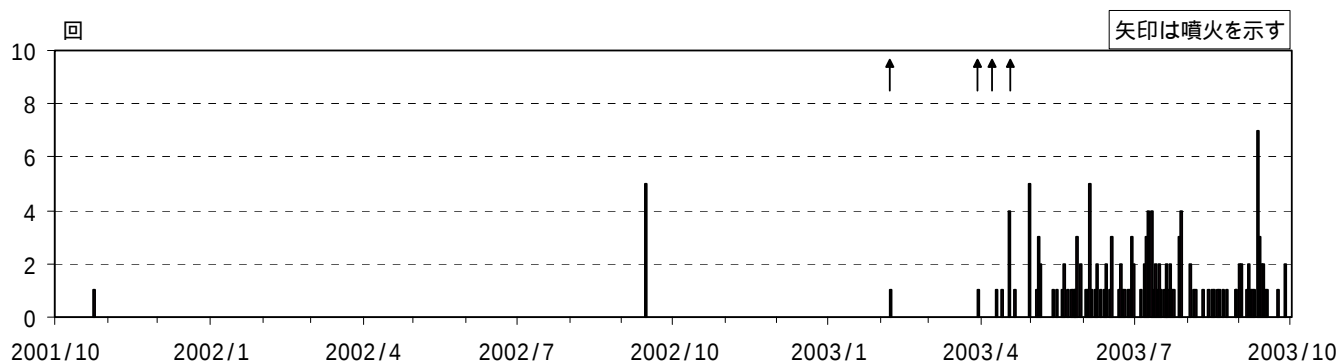


図 2 浅間山 火山性微動日別回数（2001 年 10 月 1 日～2003 年 9 月 30 日）

長期・月別 地震活動推移 （1964 年 1 月以降の火山性地震・火山性微動の月別回数）

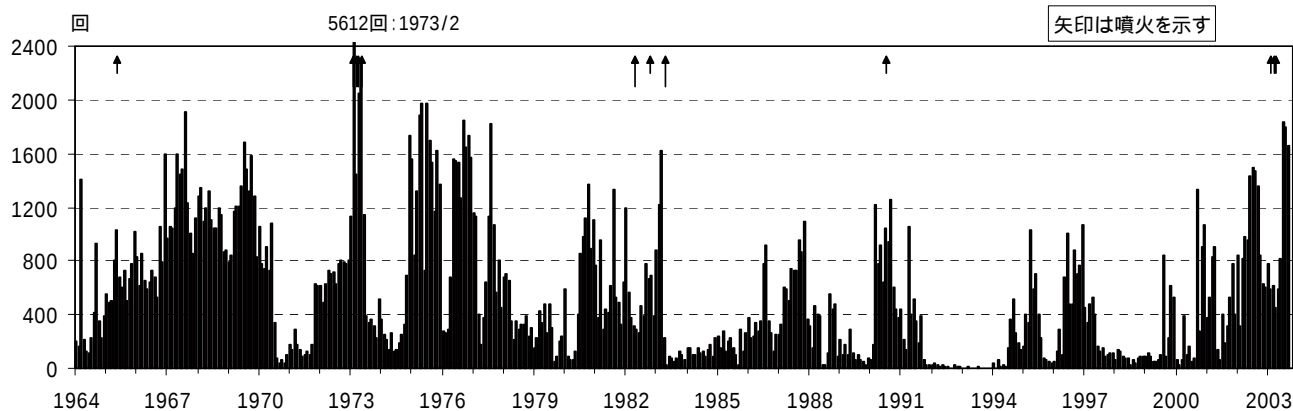


図 3 浅間山 火山性地震月別回数（1964 年 1 月～2003 年 9 月）

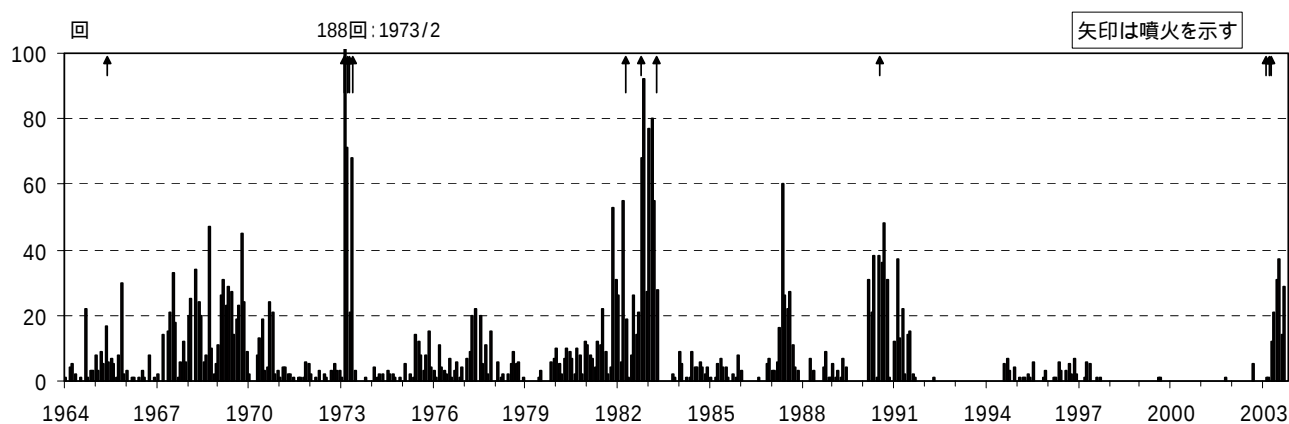


図 4 浅間山 火山性微動月別回数（1964 年 1 月～2003 年 9 月）

○ 噴煙活動の状況

遠望カメラによる観測では、雲や視程不良のため観測できなかった日が多く、観測できた日数は 7 日でした。噴煙高度の最高は 200m（9, 14, 19, 29 日）、噴煙量の最大は 2（9, 14, 19 日）で、噴煙活動は 1998～2000 年頃の落ち着いた状態に戻りつつあります（図 5～7）。

また、4 月 18 日の極小規模な噴火以降、有色噴煙は観測されていません。

短期・日別 噴煙活動推移（最近 2 年間の日別噴煙高度）

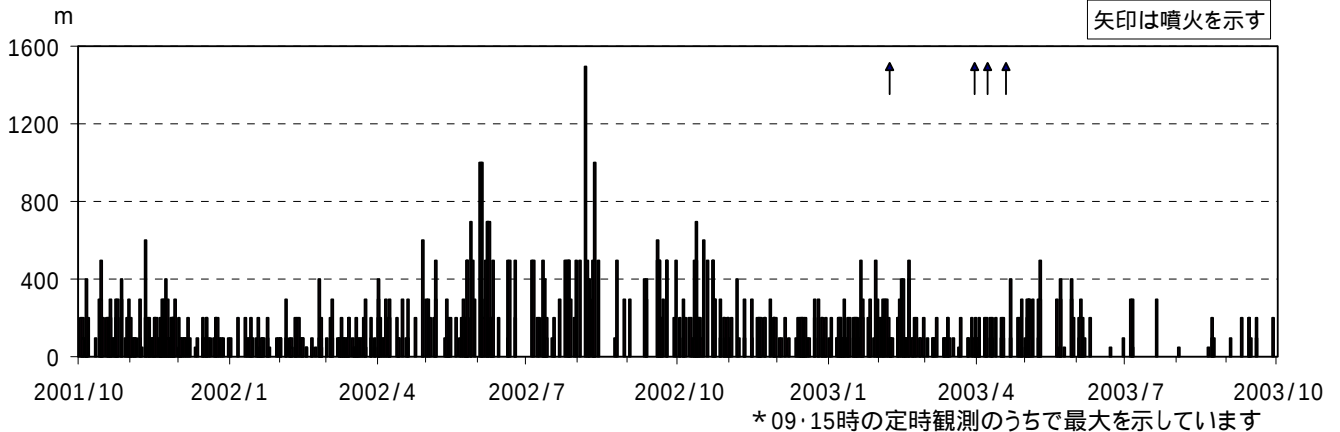


図 5 浅間山 日別噴煙高度（2001年9月1日～2003年9月30日）

長期・月別 噴煙活動推移（1964年以降の月別噴煙高度・月別噴煙量）

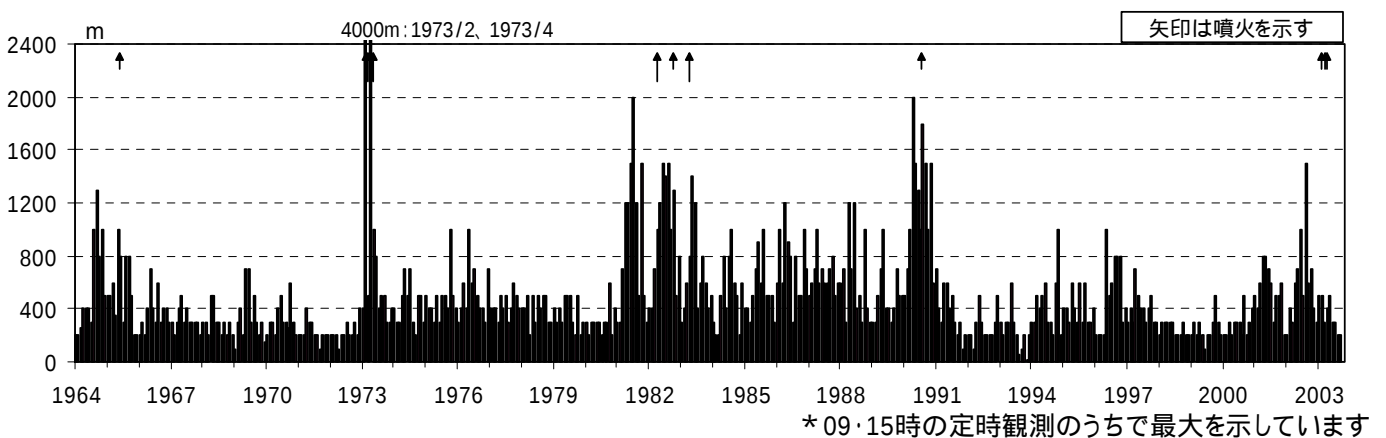


図 6 浅間山 月別噴煙高度（1964 年 1 月～2003 年 9 月）

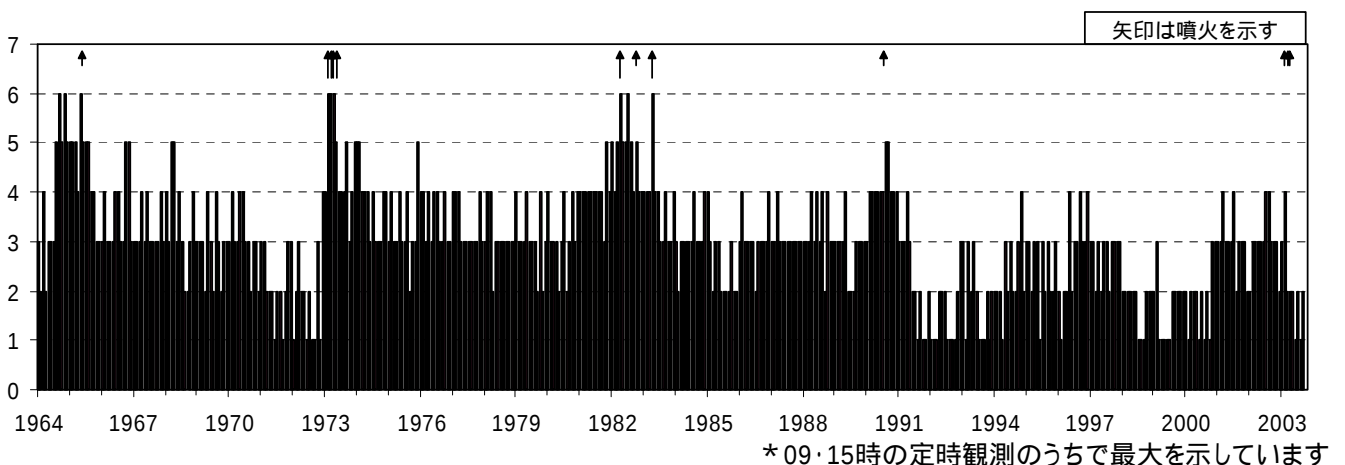


図 7 浅間山 月別噴煙量（1964 年 1 月～2003 年 9 月）

○火口温度の状況

群馬県林務部設置の赤外カメラにより、時折、火口底内の高温部分が確認されており（図 8）、火口底温度の高い状態は続いていると考えられます。

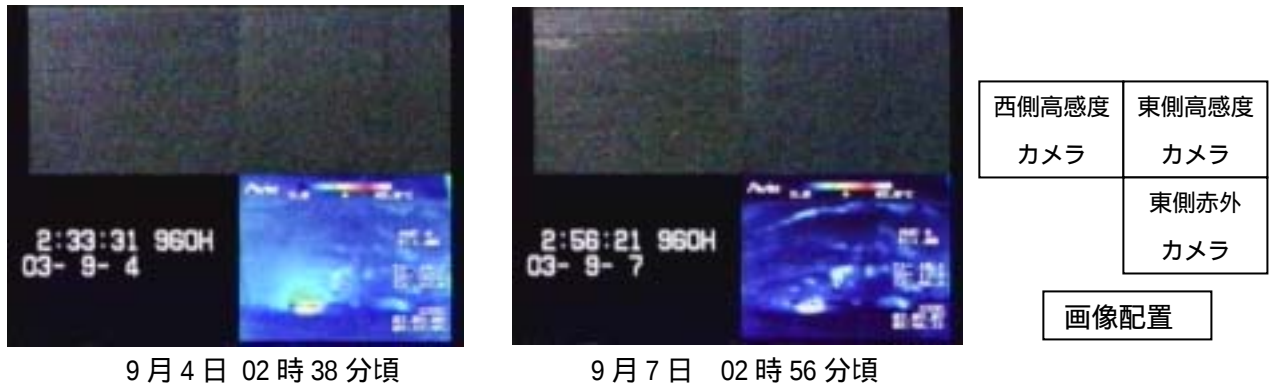


図 8 火口内の状況

○火山ガスの状況

9月18日に実施した観測では、二酸化硫黄放出量は約300～600トン/日でした。1000トン/日を上回る値が観測された4月頃までに比べると、放出量は少ない状態となっています（図 9）。

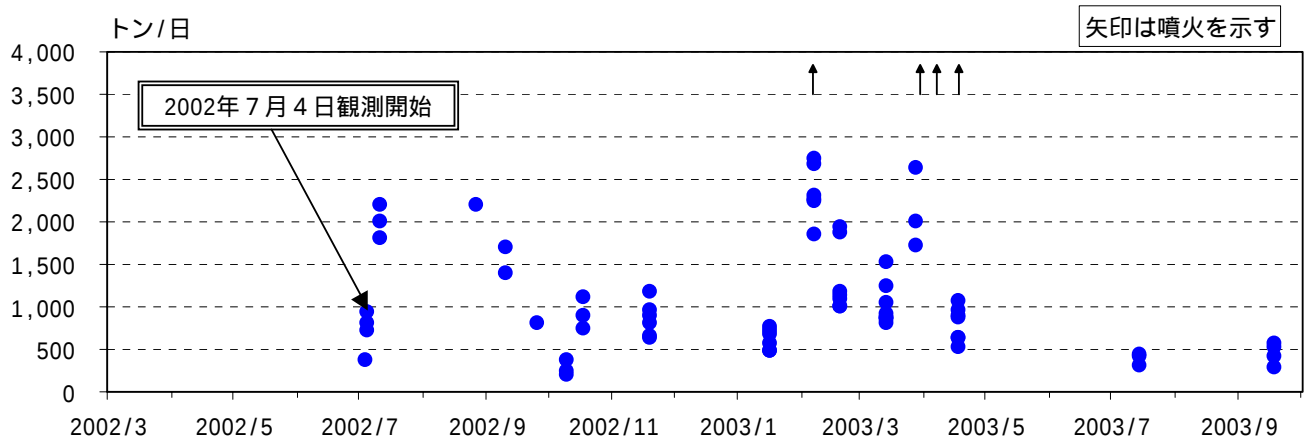
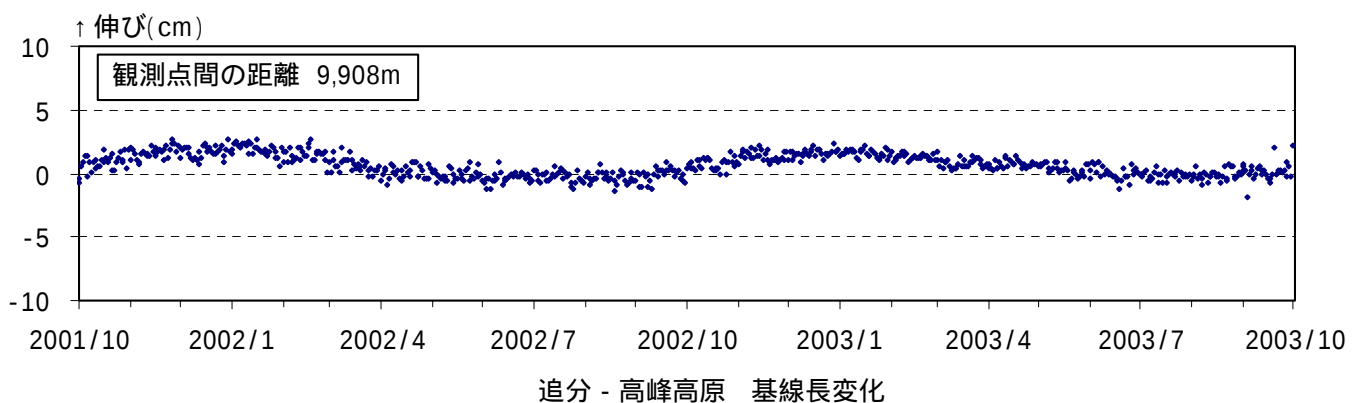


図 9 浅間山 二酸化硫黄放出量（2002 年 7 月～2003 年 9 月）

○地殻変動の状況

G P S による連続観測では、火山活動によるとみられる顕著な変化はありませんでした（図10）。



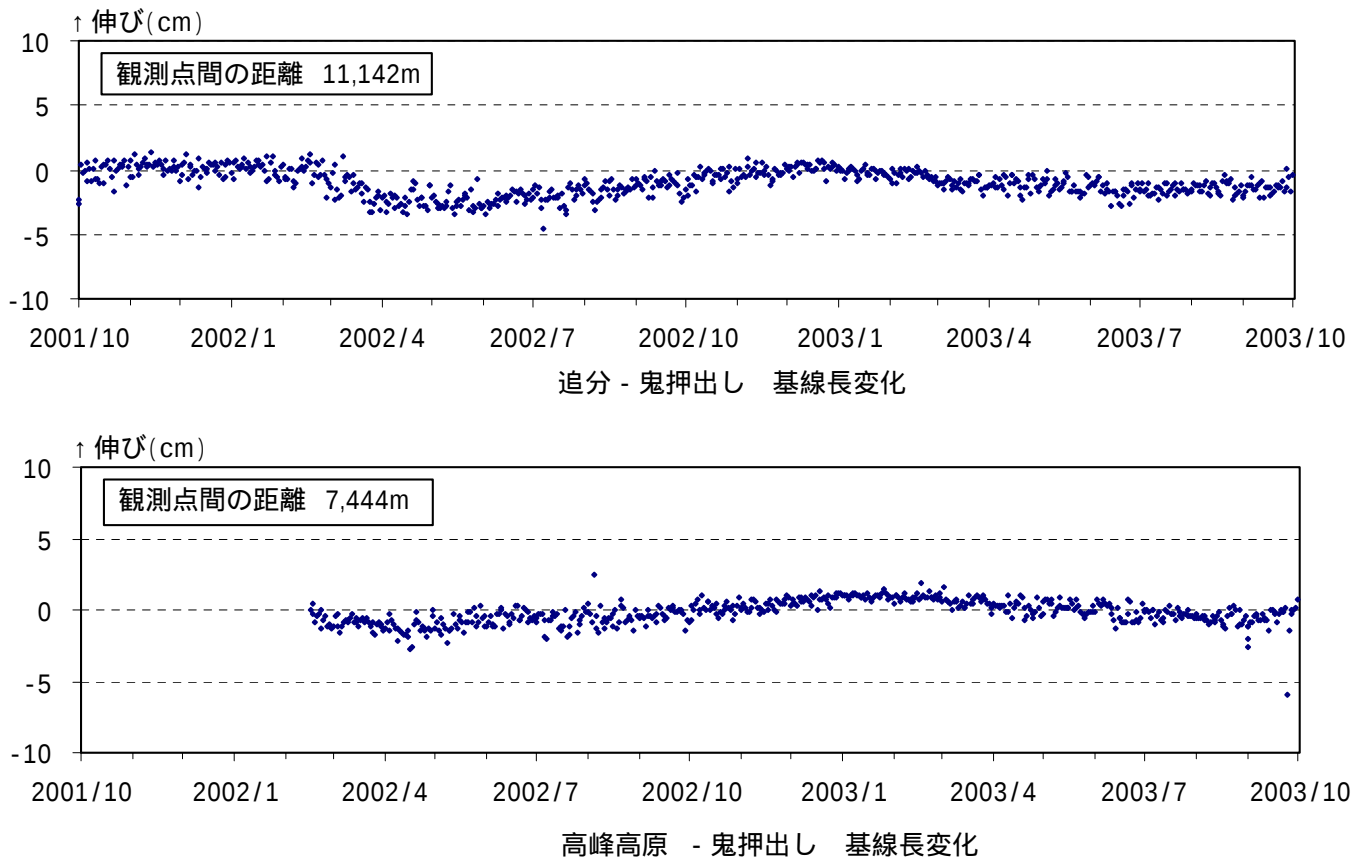


図 10 浅間山 GPS観測結果（2001年10月1日～2003年9月30日）

